

積みブロック「ふる里」 (環境保全型積ブロック)

NETIS登録番号：HR-020013-V (掲載終了)

河川の改修、災害復旧や道路・鉄道の土留工、河川・砂防などの護岸工、緑化復元に適した環境配慮型・連結空積ブロックです。



[特 徴]

- ブロック横方向40cm間隔に15～30cmの間隙があり、植物や昆虫等の生育の場が確保されます。
- ブロックは深目地によって多様な水際となり、魚巢効果が期待されます。
- 周辺の景観に配慮するため、ブロック前面を擬石模様としました。
- 壁体重量が十分あり、上下ブロックの突起によるかみ合わせや横6個の連結構造としたことにより、土圧に対し十分安定します。
- 一連当り1.0㎡の大型製品であり、水平積みで安定し、空積工法を基本としていることから施工性が良く、大幅な省力化と省人化が図れる経済的なブロックです。
- 横連結構造によりカーブ施工がスムーズにできます。

[設計条件]

適用勾配	1:0.3、1:0.5、1:1.0
背面形状	切土部・盛土部に適用可能
有効直高	5m程度

[関連製品]

- 練積みブロック「あさひⅢ型」
- カゴボックス(積みタイプ)

[明度証明書]



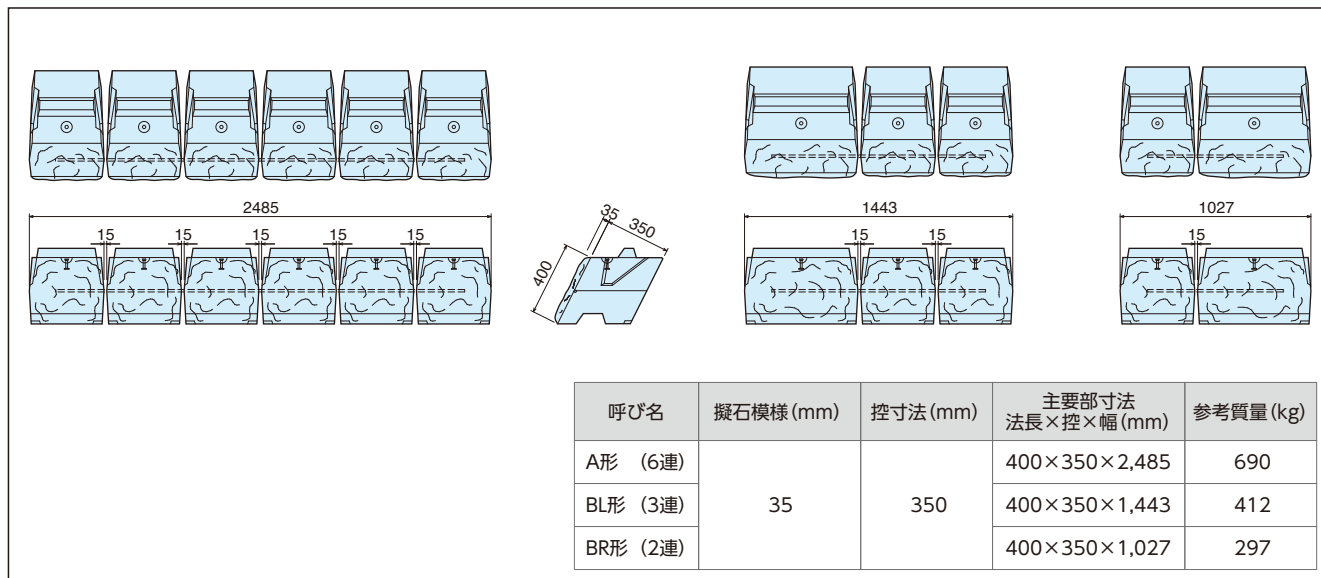
[水理特性値証明書] [テクスチャー証明]



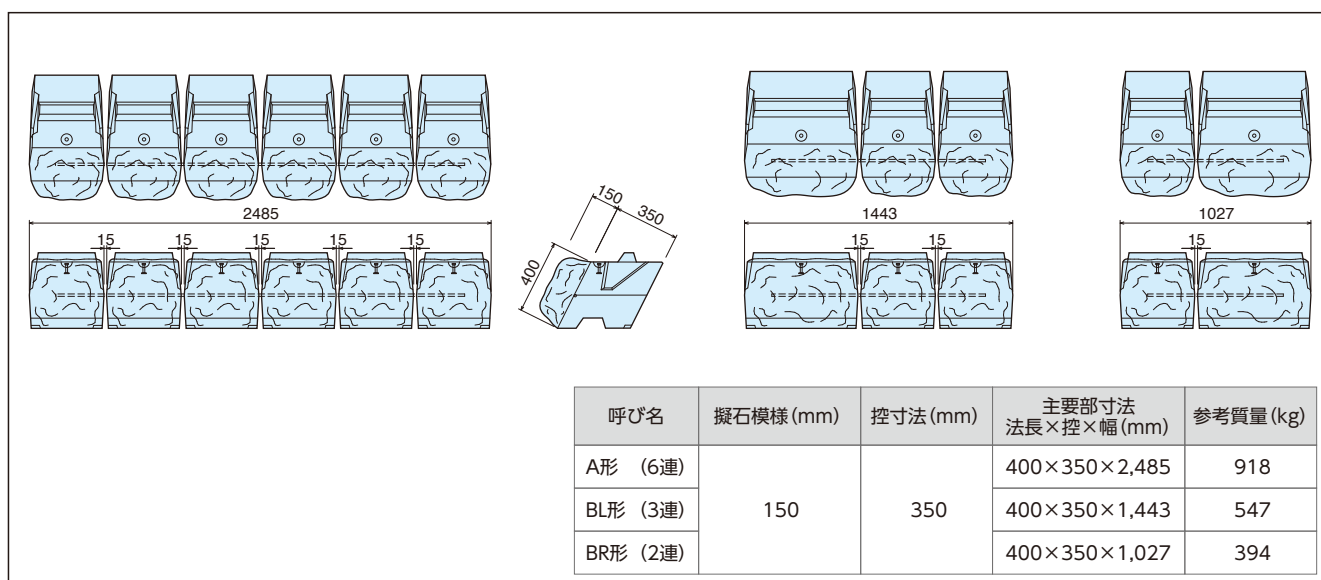


[形状図 (5分 35型 浅目地)]

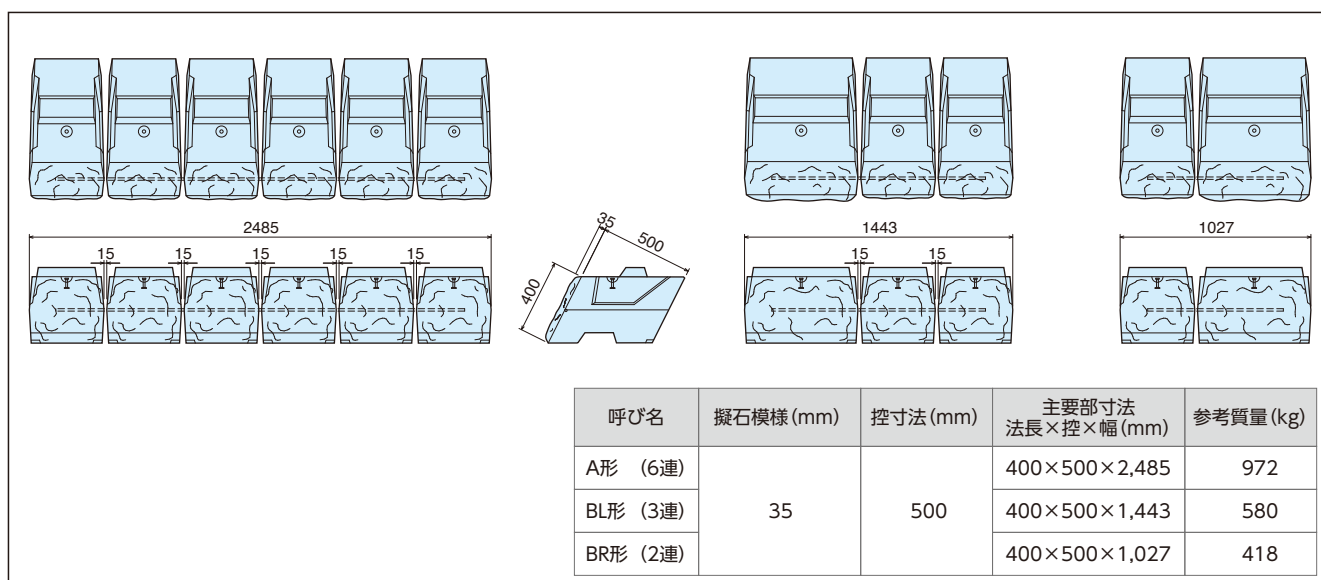
(寸法 mm)



[形状図 (5分 35型 深目地)]



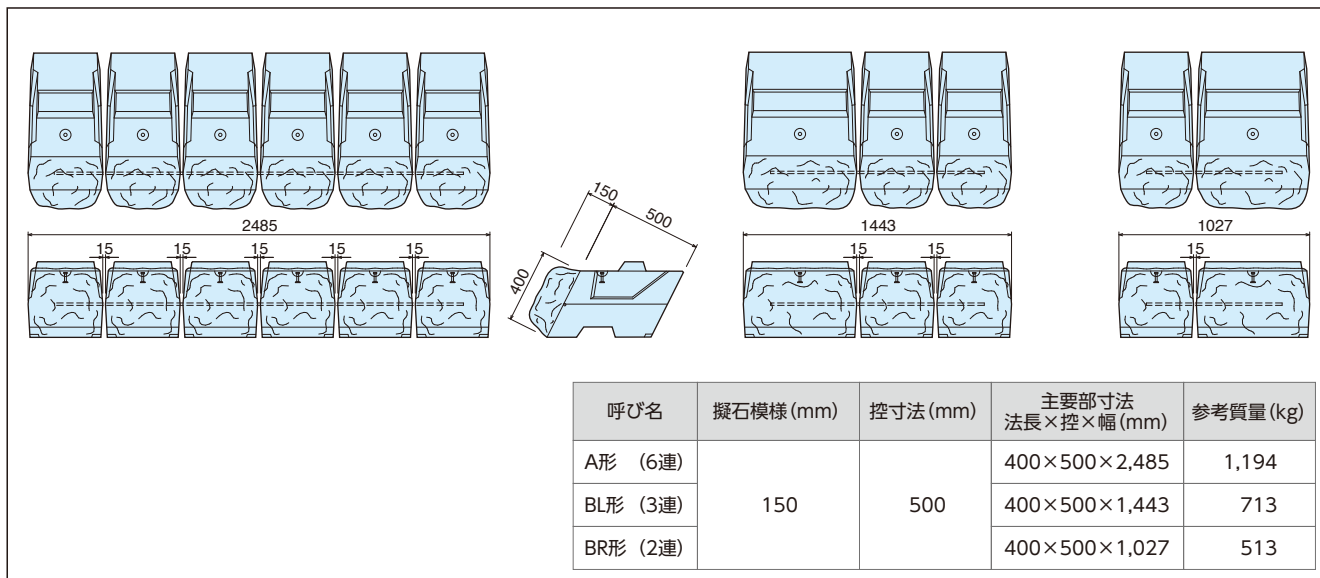
[形状図 (5分 50型 浅目地)]



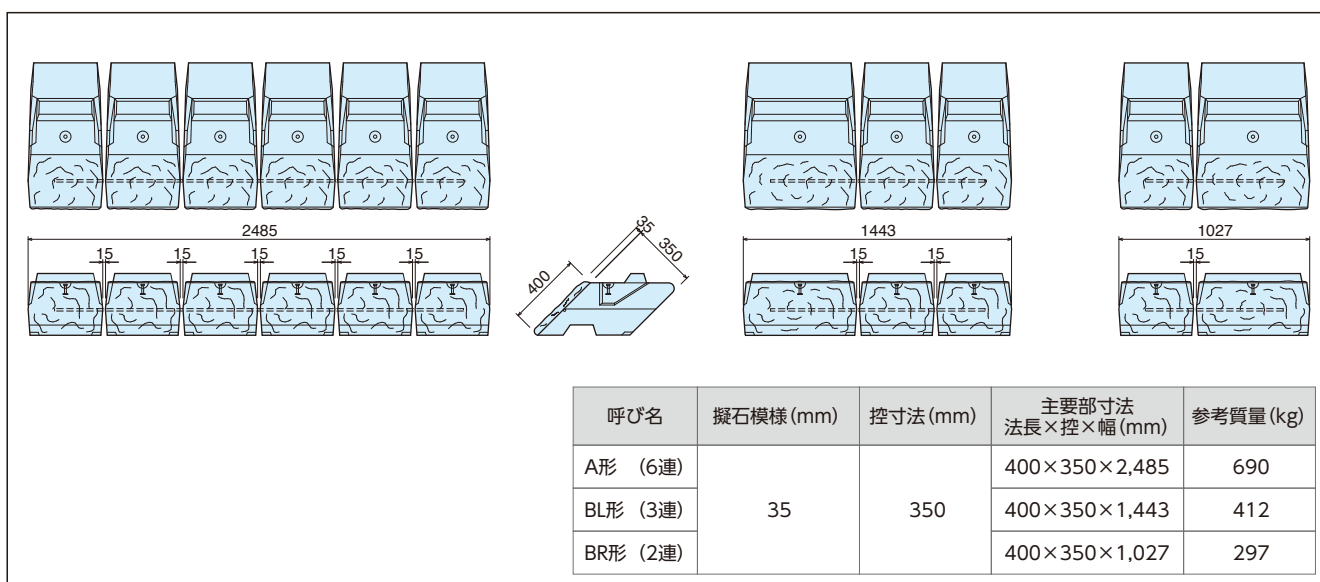


[形状図(5分 50型 深目地)]

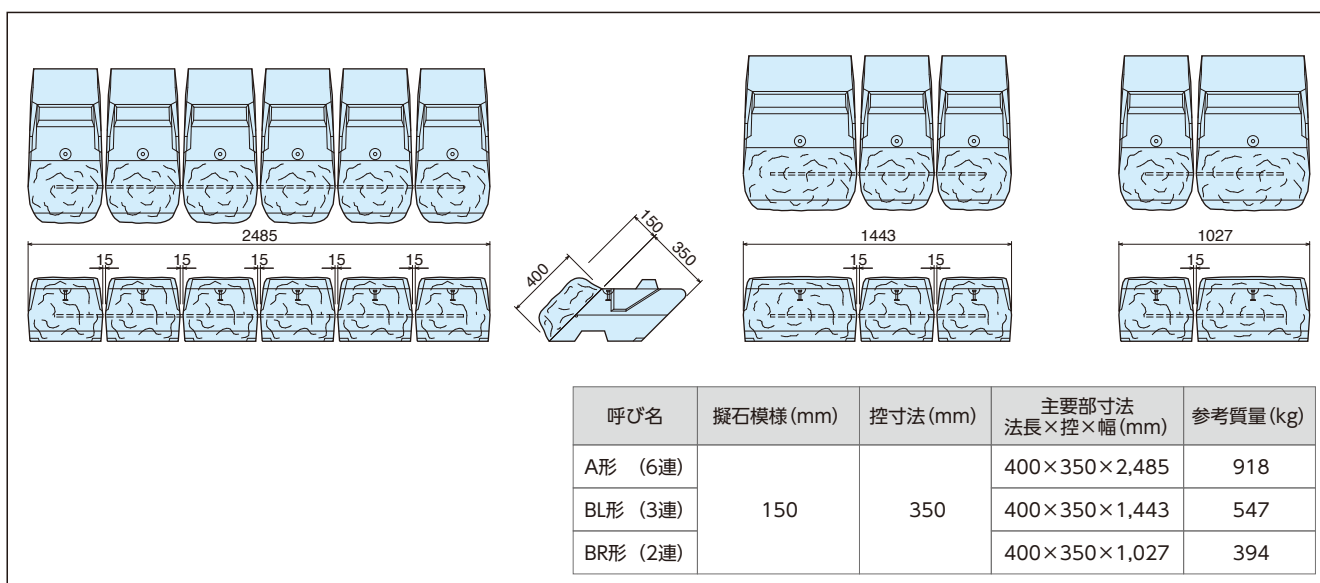
(寸法 mm)



[形状図(1割 35型 浅目地)]

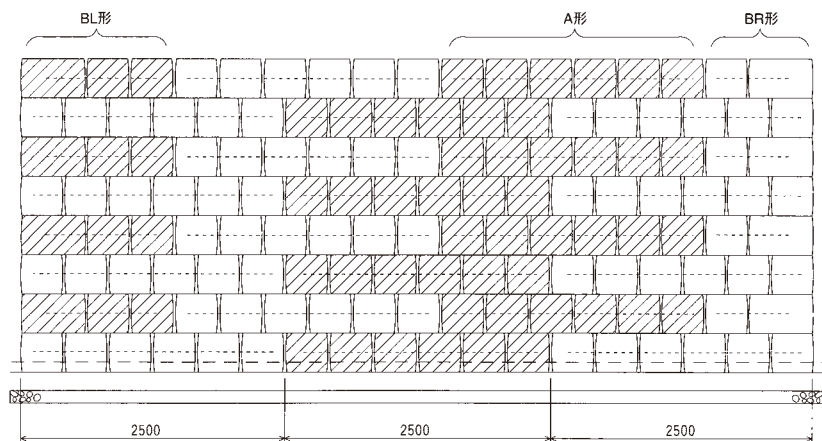


[形状図(1割 35型 深目地)]

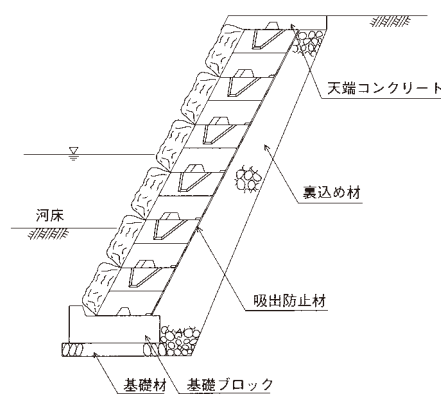




[組積図]



[標準断面図]

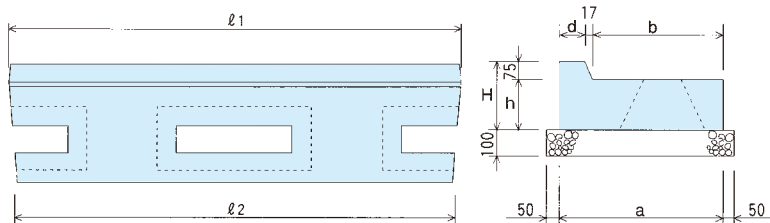


[基礎工]

基礎工は、原則として基礎ブロックを使用しますが、現場の条件・状況等によっては場所打ちの基礎コンクリートにより構築することとします。

■基礎ブロックの場合

基礎ブロックは、控寸法・目地タイプ・基礎ブロックの延長等により、下記の3タイプとなります。



種類	使用分類			寸法 (mm)						1個当たり		延長10m当り		
				a	b	d	h	H	l1	l2	体積 (m ³)	質量 (kg)	中詰量 (m ³)	基礎材量 (m ³)
650	控350	5分	浅・深目地	650	550	100	200	275	2,500	2,400	0.2665	613	0.3148	0.75
	控350	1割	浅目地						1,250	1,150	0.1317	303	0.3280	0.75
850	控500	5分	浅・深目地	850	750	100	200	275	2,500	2,400	0.3500	805	0.3812	0.95
	控350	1割	深目地						1,250	1,150	0.1726	397	0.4000	0.95

[裏込め工]

盛土部におけるブロック積擁壁の裏込め材は、擁壁の背面勾配を1:Nとした場合に、地山と接する面の傾斜が1: (N-0.1)となるように設置します。切土部の場合、裏込め材は等厚に設置します。

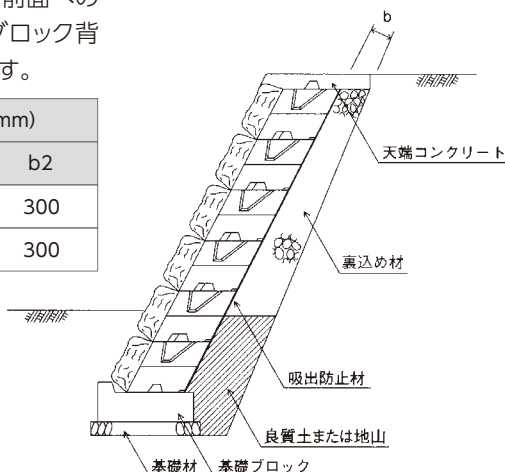
裏込め材は基礎周辺部に背面土からの水の浸透による悪影響を及ぼさないよう、擁壁前面の地盤線程度まで設置することを原則とします。また裏込め材の直下、基礎底版高さまでの間には不透水層などを設け、背面を伝わった雨水などが基礎部に悪影響を及ぼさないようにします。また前面に水位を考慮する場合には裏込め材は支持地盤程度まで設置することとします。

なお、いずれの場合も壁面前面への裏込め材流出を防ぐため、ブロック背面に吸出し防止材を設置します。

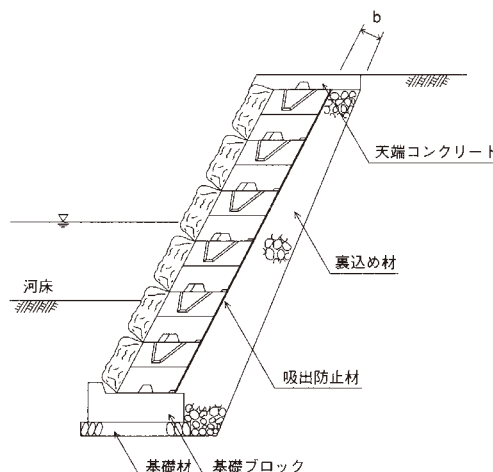
控寸法 (mm)	b寸法 (mm)	
	b1	b2
350	200	300
600	200	300

b1: 背面の土砂が良好な場合
b2: 背面の土砂が普通の場合

道路の場合



河川の場合





[曲線]

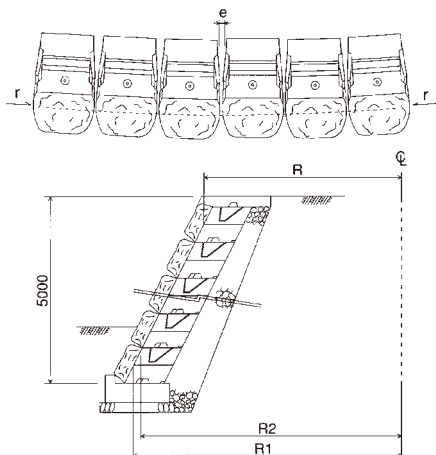
曲線部の対応は原則として連結鉄筋を中心に、外カーブの場合は控え方向の間隔を狭め、また内カーブの場合は控え方向の間隔を広げることにより曲線を形成します。なお、曲線部の半径や延長の設定は、下図の(r)箇所で行うようにします。



■外カーブ

下図の通り、連結鉄筋を中心に控え方向のブロック相互の間隔を狭め、曲線を形成します。最小半径(R)は最上段ブロックの(r)箇所において20.0mで、ブロック相互の間隔(e)等は右表の通りとなります。

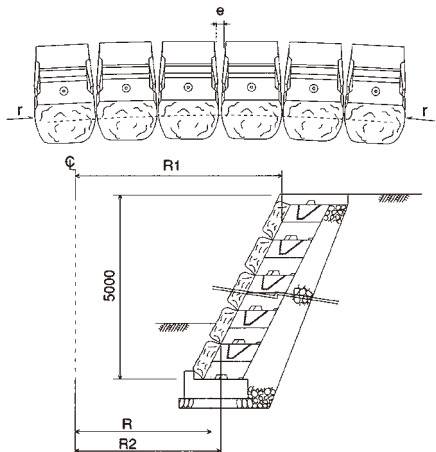
寸法(mm)	半径の位置	半径(m)	e寸法(mm)
350	最上段ブロックのr箇所 (R)	20.00	37
	最下段ブロックのr箇所 (R1)	22.15	38
	最下段ブロックの天端前面 (R2)	22.06	—
500	最上段ブロックのr箇所 (R)	20.00	33
	最下段ブロックのr箇所 (R1)	22.15	34
	最下段ブロックの天端前面 (R2)	22.06	—



■内カーブ

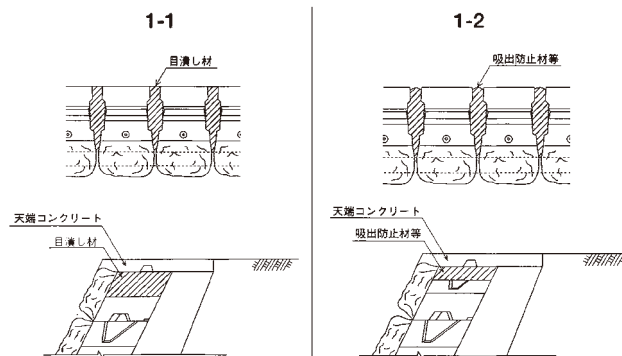
下図の通り、連結鉄筋を中心に控え方向のブロック相互の間隔を広げ、曲線を形成します。最小半径(R)は最下段ブロックの(r)箇所において20.0mで、ブロック相互の間隔(e)等は右表の通りとなります。

寸法(mm)	半径の位置	半径(m)	e寸法(mm)
350	最下段ブロックのr箇所 (R)	20.00	53
	最上段ブロックのr箇所 (R1)	22.15	52
	最下段ブロックの天端前面 (R2)	20.09	—
500	最下段ブロックのr箇所 (R)	20.00	57
	最上段ブロックのr箇所 (R1)	22.15	56
	最下段ブロックの天端前面 (R2)	20.09	—

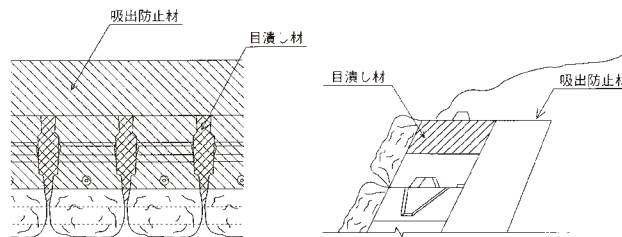


[天端工(調整コンクリート)]

1. 天端部を調整コンクリートで処理する場合は、下記の通りとします。
 - 1-1最上段のブロック1段分のみ、現地発生土や碎石等でブロック間の隙間に目潰しを施した後、コンクリートを充填します。
 - 1-2最上段のブロック天端部の隙間に吸出し防止材等を設置した後、コンクリートを充填します。



2. 擁壁天端部を客土で仕上げる場合は、最上段のブロック1段分のみ、現地発生土や碎石等で目潰しを行い、吸出し防止材を施した後天端部を成形します。



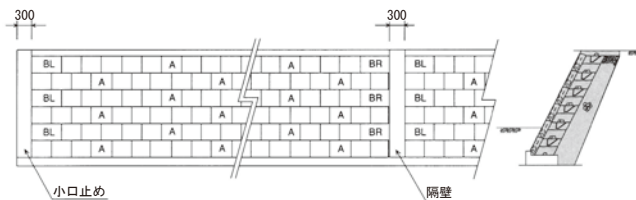
[専用吊機]

施工には専用吊機を使用します。



[小口止め・隔壁工]

〈参考〉小口止めは起終点に必ず設置することとし、隔壁は原則として20m間隔に設置します。なお、小口止め、隔壁の幅は最小幅を30cmとします。(現場の状況によって形状が変わります。)





[施工直後と経年との比較]

■浅目地タイプ



■深目地タイプ



[勾配変わり]

■勾配変わり:5分⇔既設2割勾配



浅目地タイプ

■勾配変わり:5分⇔1割勾配



深目地タイプ

[カーブ組積試験]

法長=2.0m 半径=4.0m

